

不二

一般版

2/2022



令和三年度第3回昇格昇段試験成績発表

今月の競書課題 専門部 会友準六段

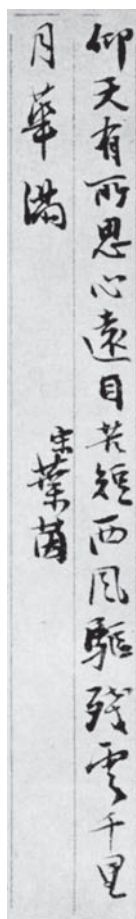
今月の出品期間2月7日(月)～2月15日(火)必着

漢字半紙

〈出典〉『鳴鶴作品草稿集Ⅱ 宋葉茵 有所思』
 〈読み〉心は遠く目は短きを苦しむ
 〈大意〉心は遠く馳せるが、目の届くのはほんの近くまで。

心遠目苦短

仰天有所思 心遠目苦短 西風驅殘雲
 千里月華滿 宋葉茵



かな半紙

左の短歌を、半紙を縦使用、自運縦書き。
 (変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由)

春の夜の闇はあやなし梅の花色こそ見えね香やはかくるる

〈大意〉春の夜の闇はどうも筋の通らないことをしている。梅の花の色こそ見えはしないが、その香は隠れているか、いや隠れていないではないか。
 〈作者〉凡河内躬恒(古今和歌集 巻第一 春歌上41)

新和様半紙

左の短歌を、半紙を縦使用、自運縦書き。
 (漢字・かなの書き換え自由、歴史的仮名遣いは尊重)

いただきの松の雪ふるあらし山春の初めに君と見るかな

〈大意〉山の頂きの松の雪が降る嵐山で春の初めにこの景色を君と見ることがあるかな
 〈作者〉与謝野晶子(一八七八～一九四二)
 〈出典〉与謝野晶子歌集「佐保姫」より(岩波文庫)

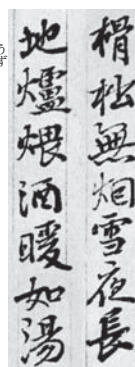
3月号課題予告				
漢字半紙	西風驅殘雲	(鳴鶴作品草稿集Ⅱ 宋葉茵)	かな半紙	今日のみと春を思はぬときだにも立つことやすき花のかげかは(凡河内躬恒)
新和様半紙	西の方長尾もあらず目のほては今降る雪のまぼろしの壁	(与謝野晶子)	漢字条幅	柳花深巷午鷄聲 桑葉尖新緑未成 (宋范成大)(鳴鶴作品草稿集Ⅱ)
かな条幅	かき暮しなほふるさとの雪のうちに跡こそ見えね春は来にけり(新古今和歌集四)		新和様条幅	笠雲の昨夕見し不二のいちじるく寒けかりしか今朝のましろさ(北原白秋)

※課題及び課題の文字は変更することもあります。

漢字条幅

左の語句を、画仙紙半折(136cm×35cm)を縦使用、自運縦書き。
 (書体自由)

柑桔無烟雪夜長
 地爐煨酒暖如湯



〈読み〉柑桔無烟雪の夜は長し 地爐に酒を煨めて暖きこと湯の如し
 〈大意〉切り株に煙り無く、雪の夜は長く感じる。地中に切ったいろりに埋めて燗をしてある酒は湯のようにあたたかい。
 〈出典〉『鳴鶴作品草稿集Ⅱ 范成大 田園四時雜興』

かな条幅

左の和歌を、画仙紙半折(136cm×35cm)を縦使用、自運縦書き。
 (変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由)

うぐひすの鳴けどもいまだ降る雪に杉の葉白き逢坂の山

〈大意〉もう春になったと鶯が鳴いているのになお降る雪に埋もれて、杉の青葉も真白な逢坂の山よ。
 〈出典〉新古今和歌集 巻第一 春歌上 一八

新和様条幅

左の短歌を、画仙紙半折(136cm×35cm)を縦使用、自運縦書き。
 (漢字・かなの書き換え自由、歴史的仮名遣いは尊重)

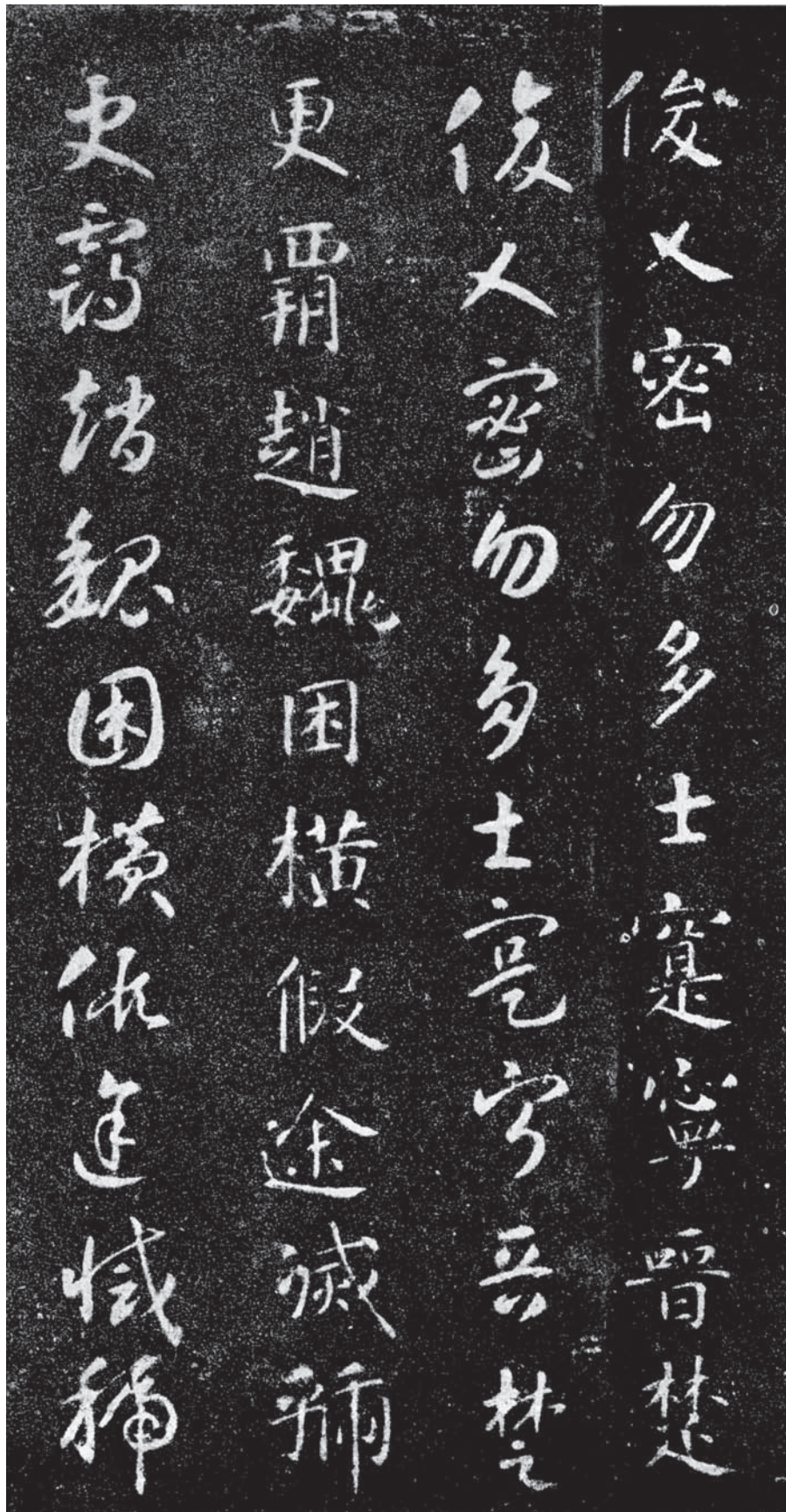
不二ヶ嶺はいただき白く積む雪の雪炎たてり真澄む後空

〈大意〉富士の山は頂きが白く積もっている。雪炎の立つ背は真澄む空がある。
 〈作者〉北原白秋(一八八五～一九四二) 〈出典〉北原白秋歌集(岩波文庫)

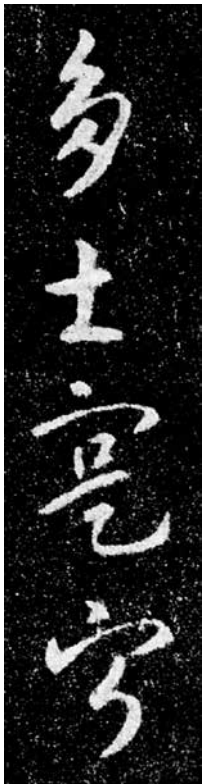
自運Ⅱ与えられた課題語句を自運作品として用紙と筆を選び墨の磨り工合を工夫し、書作品として造型すること。それ故、先生に手本を書いてもらうことは避けたい。作品制作に当っては、古典からの集字などを試みて始めるのもよい。参考図書としては、現代字体字典(講談社)、五體字類(西東書房)、大字典(講談社)、古典かな字鑑(書藝文化新社)、広辞苑(岩波書店)、古語辞典(旺文社)などを見たい。

真草千字文（關中本）

俊父密勿シユンガイミツブツ 多士寔寧タシシヨクネイ 晋楚更霸シンソコウハ 趙魏困橫チヨウギコンオウ 假途滅虢カトメツカク



俊父密勿シユンガイミツブツ 多士寔寧タシシヨクネイ 晋楚更シンソ霸コウハ 趙魏チヨウギ困コン橫オウ 假途カト滅メツ虢カク



『真草千字文』 27ページ参照

隋 智永 真草千字文 關中本
第一四二句目

多士寔寧タシヨクネイ(多士寔に寧まことやすんず)

〈語釈〉

多ハ衆ナリ優ナリ功勞多キノ謂ナリ士ハ學以テ位ニ在ル者ヲ稱ス亦事ニ任スルノ稱ナリ寔ハ實ナリ寧ハ安ナリ泰ナリ是レ濟濟タル多士位ニ在リ勤勉忠實以テ國務ニ任スルカ故ニ庶績能ク舉リテ匹夫匹婦モ其所ヲ得サルハナク國家昌平ナレハ帝王宸慮ヲ勞スルコトナク寔ニ安寧ナルヲ謂フナリ詩ノ大雅ニ濟濟多士、文王以寧、ト見ヘタリ

(落合子健『草書千字文』による)

〈大意〉

「多士」は、詩經・大雅・文王の『多士濟濟』による。立派な人物がたくさんいること。優れた人物が多く集まっていること。寔は實、または正に同じ。まことに。

多くの人材は悉く王廷に仕え、多士濟濟として天下は誠によく治まる。

〈書き方〉

多…「多」の草書の姿。終りの二画は片仮名の「メ」の姿で書かれることが多

い。士…逆筆で突いて書く二画目から三画目など、画数の少ない字の草書の姿から、筆遣いの要領をつかんで、書き覚えたい。

寔…ウ冠に「是」の草書形を以て表現する。

寧…ウ冠の下は平がなの「ろ」を書くが如くに。

【用具・用材】

筆Ⅱ永昌五号 墨Ⅱ顕微無間
紙Ⅱ松雪

(習い方は24ページ)

漢字半紙（1級～5級）

『真草千字文 關中本』より「多士寔寧」の四字の臨書

石橋鯉城臨

多士寔寧



『真草千字文』 27ページ参照

隋 智永 真草千字文 關中本

第一四一・一四二句目

俊父密勿 多士寔寧

〈習い方〉

○千字文で基本の筆遣いを学ぶが、同時に漢字、漢語の使い方を識る。

○博覧強記で沢山書き覚えることが肝要。ツケペン等を使い、原稿用紙などに原帖紹介の楷書の書きぶりと草書の表現のコツを繰り返し習ってみよう。

○課題だけを唯、専らに真似しても、肝心な運筆の妙は把めない。24頁の図解を参照の上、運筆の呼吸（1、2、3、4）を体得したい。

【用具・用材】

筆 狼毫 中国製筆

墨 顕微無間

紙 松雪

（習い方は24ページ）

漢字半紙（6級～10級）

「秋収冬蔵」の四字を書きなさい。「秋収」または「冬蔵」の一字或いは二字を書いたの提出も可。

石橋鯉城書

秋 収
冬 蔵

『真草千字文』 27ページ参照

千字文 第六句目

秋収シユウ冬蔵トウゾウ

〔大意〕

秋は作物を収獲し冬になればそれを蔵にしまう。

〔解説〕

○漢字半紙では書法の基本や言葉を学ぶ為に隋の智永の「千字文」を学んでいる。同じ楷書でも今様の日本の書き方に直して書いている。

○坐法を正し前傾姿勢で、重心は臍下丹田に。身体を使つての運筆を心掛けたい。

○右払いでは左足指をで身体を少し押し上げる。左払いはゆるやかに、右足指で。

〔書き方〕

秋…禾偏と火の組合せ。相讓相避で懷を調整。火の三画目は鋒先を立て、細目ながら紙面を鋒先で切るが如くに。

収…「乚」と「又」の組合せ。筆順に注意。本字では「收」と書く。

冬…「久」と「ミ」の組合せ。縦に並ぶ二つの点の書き方を知る。

蔵…戈法での線が浮かないように留意。草冠は表現がいろいろあつて有難い。ハヤシ（世）など。「臣」は三呼吸五呼吸ぐらいで、目をとじて「臣」と書けるようにしなければならぬ。

〔用具・用材〕

筆 永昌五号

墨 顕微無間

紙 松雪

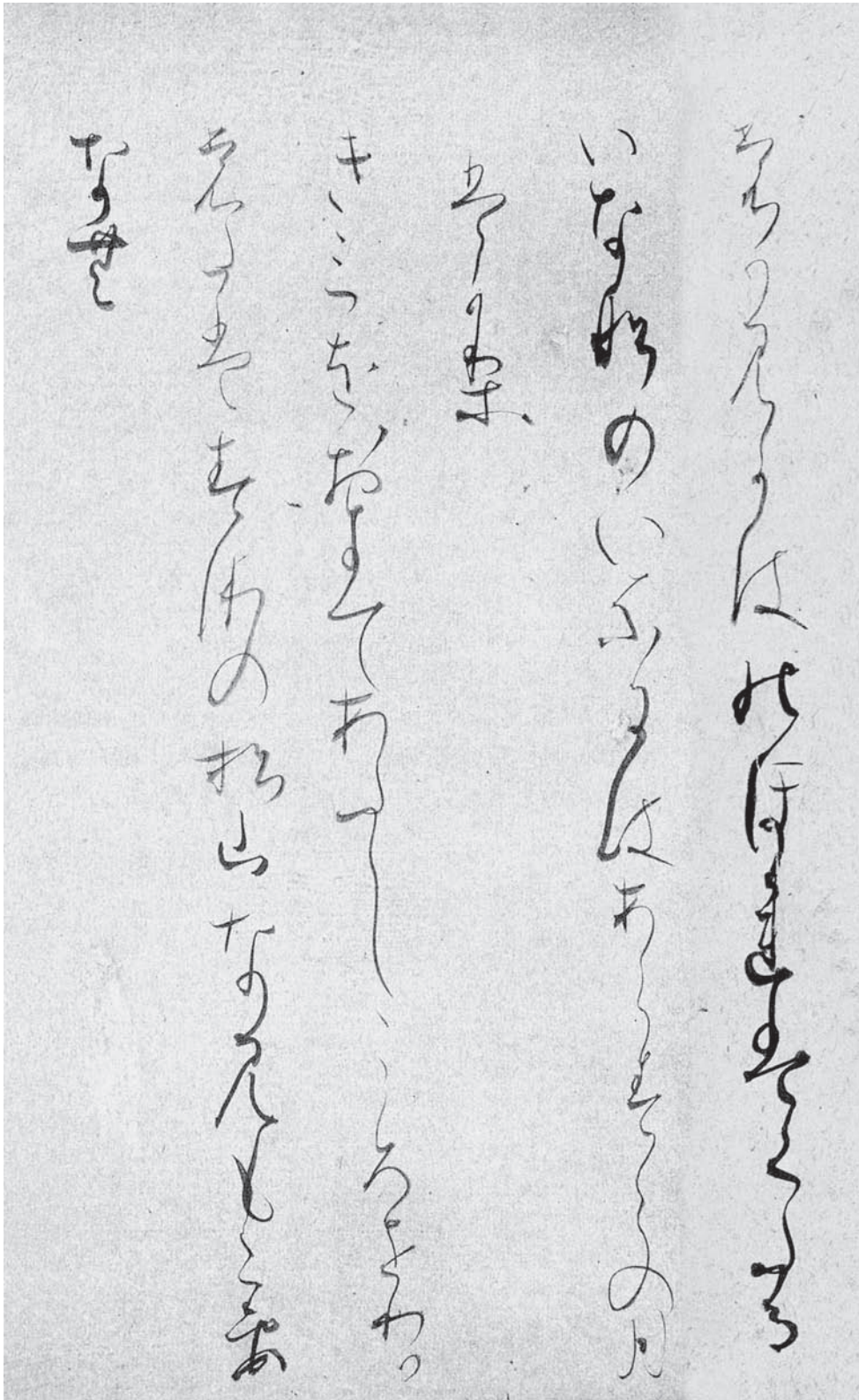
（習い方は25ページ）

かな半紙 専門部(五段〜準初段)

左の『関戸本古今集』より「裳可見可は」から「な見もこ要な無」までの六行を、半紙を縦に使用して臨書しなさい。

※原寸には拘らなくてよい。

(原寸)



裳^も可^が見^み可^かは能^のほ連^れ盤^だく多^たる／いな船^{ふね}のい奈^な尔^にはあ^あら春^{はる}この月^{つき}／盤^だ可^か梨^りき三^{さん}をお支^さてあ^あ多^たしこゝろをわ可^か／裳^も多^た盤^だ春^{はる}衛^ゑの松^{しょう}山^{さん}な見^みもこ要^え／な無^む

〈読み〉

もがみ川^{がみ} のほればくだる
いな舟^{ふね}の いなにはあらず
この月^{つき}許^{かり}

君をおきてあだし心をわが
もたば 末^{すえ}の松山^{しょうざん}浪^{なみ}もこえなむ

〈大意〉

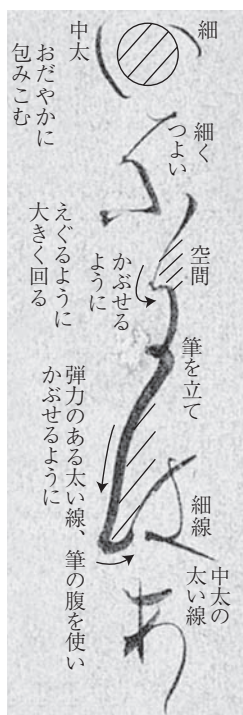
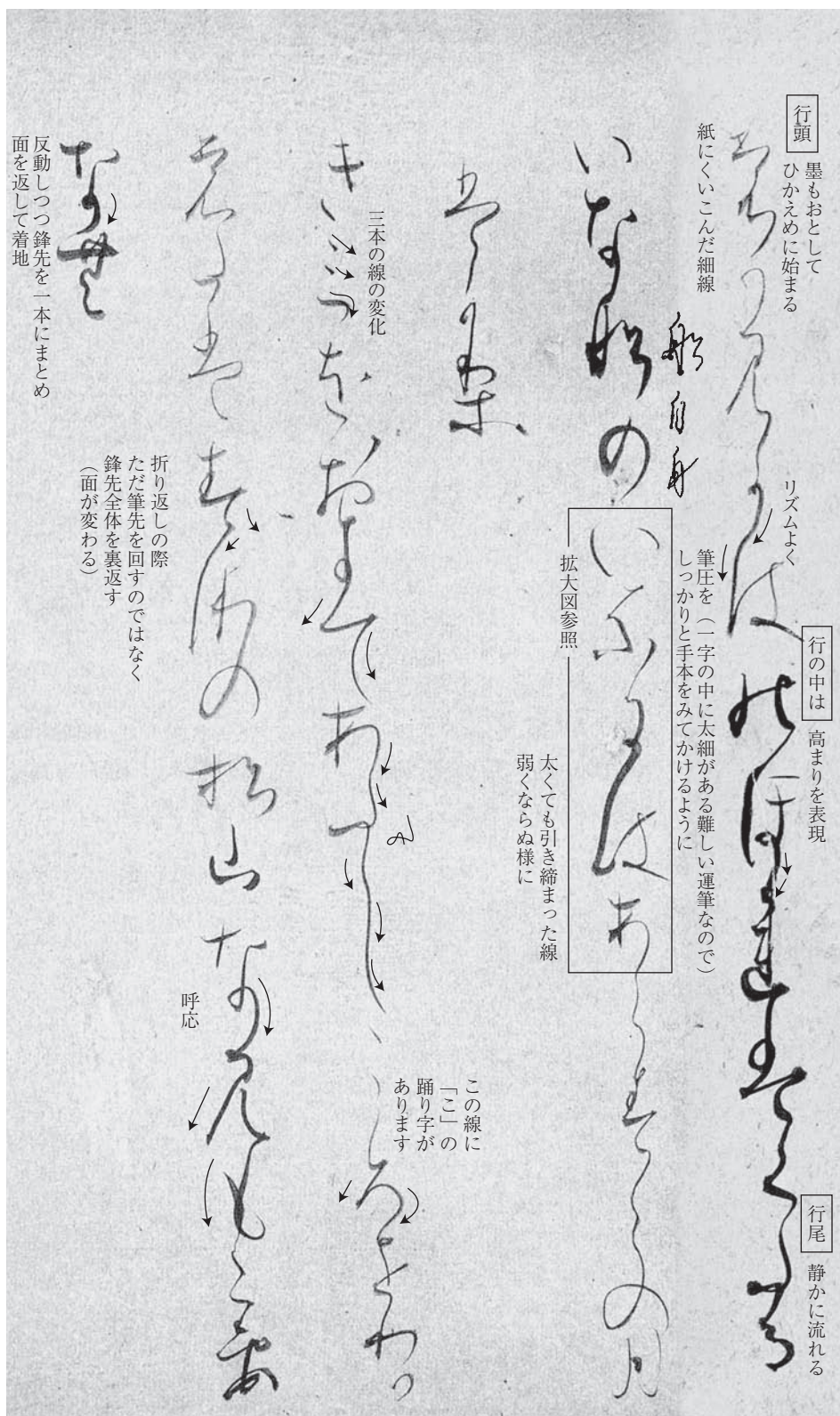
最上川を上ったり下ったり
する稲舟^{いなふね}の名のように、否^{いな}
(嫌)ではありませんが、た
だこの月だけは待ってくださ
い。

あなたをさしおいて、他の
人に心を移すようなことが
あったならば、あの末の松山
を波が越えるようになってし
まうでしょう(そんなことは
決してありません)。

(古今集卷二十)

東歌
1092・
1093)

課題解説（かな半紙五段〜準初段）



〈解説〉

今月も、関戸本「みちのくうた」から先月号の課題歌の続き二首を臨書します。まず墨色の変化そして余白と渴筆や太細が見事に組み合わせられた美しいかなの流れに圧倒されます。大体、墨のつけ始めは太く、漸次墨量が少なくなるにつれて細くなりますが、太いなかにも細線、細線のなかにも太い線があります。一字のなか、一つの連綿線のなかに抑揚・緩急・上下動等さまざまな手法を駆使して、多彩な変化をつけ流麗な躍動を表現しています。（拡大図参照）このリズム感を何回も書く事で体得しましょう。

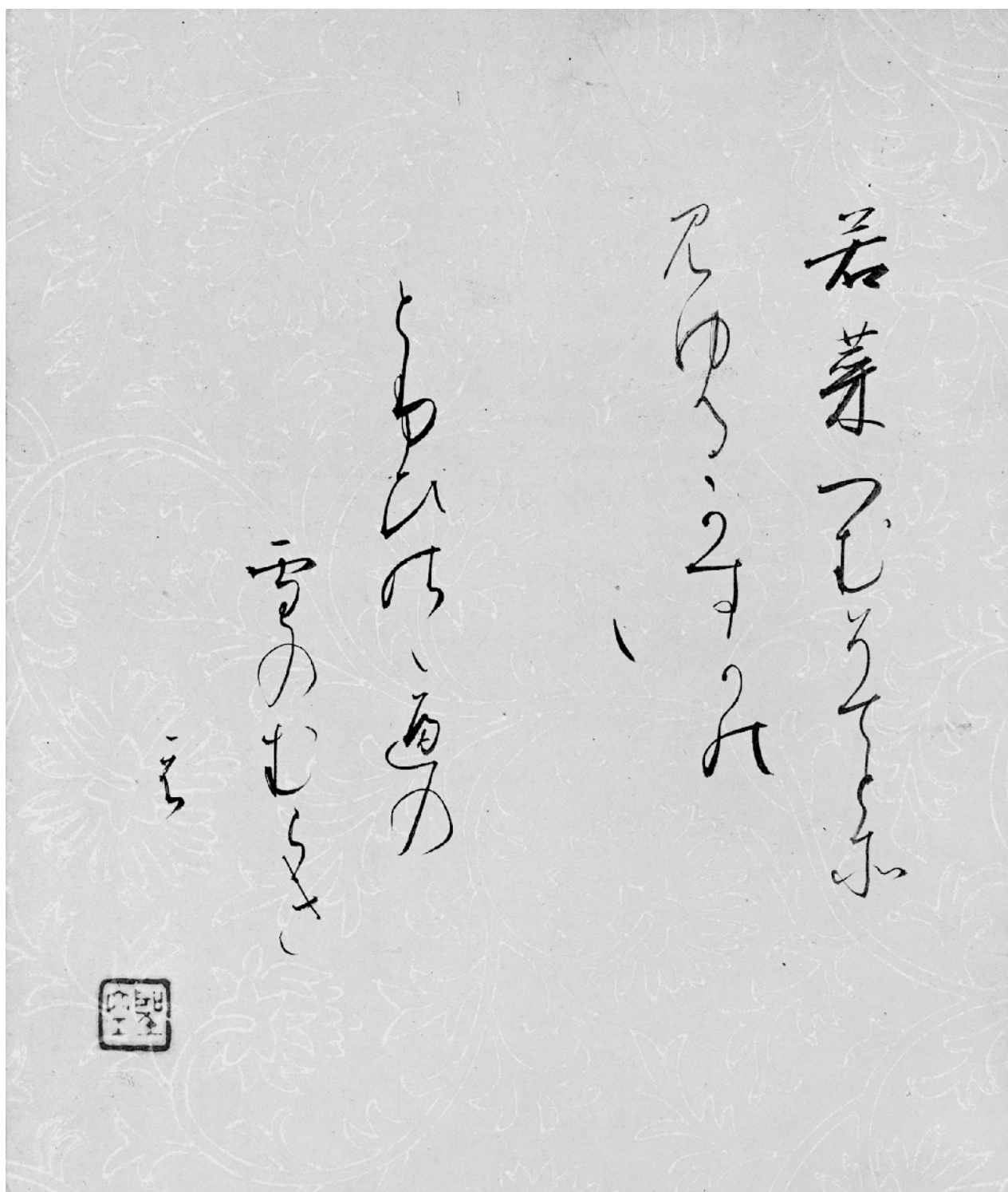
（八尋光華）

【用具・用材】

筆Ⅱ かな用小筆
墨Ⅱ かな用和墨
紙Ⅱ かな用雁皮

かな半紙（1級〜5級）

左の図版の「若菜つむ」から「雪のむらぎえ」までを半紙を縦に使用して体裁よく書きなさい。



若菜つむ曾てと所
見ゆる可す可能、
と布ひ能、遍の
雪のむらぎえ

〈読み〉

若菜つむ袖とぞ見ゆる
かすが野の飛火の
野辺の雪のむらぎえ

〈大意〉

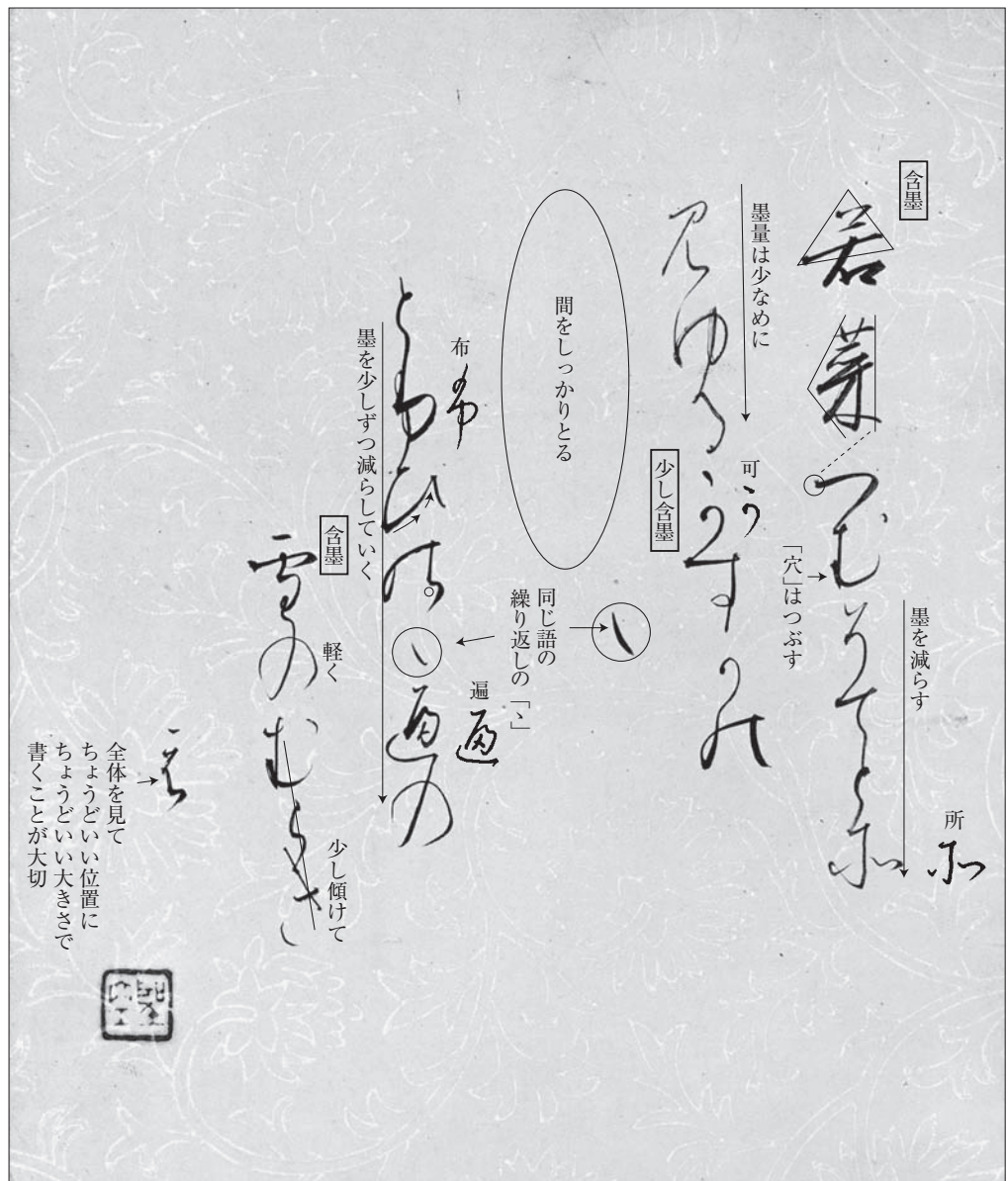
若菜を摘む人々の袖かとばかり見えることだ。

春日野の飛火の野辺の雪のむら消えは。

（新古今和歌集 卷第一

春歌上13）

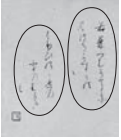
課題解説（かな半紙1級～5級）



ポイント

①構成をおさえましょう。

上の句（五・七・五）と
下の句（七・七）の二
群にわかれています。



②墨色の变化で奥行きのある
作品にしましょう。

隣り合う行が同じ墨量にならな
いようにします。

③行書きする前に、変体がな
の単体をおさえましょう。

※布（ふ）の書き方



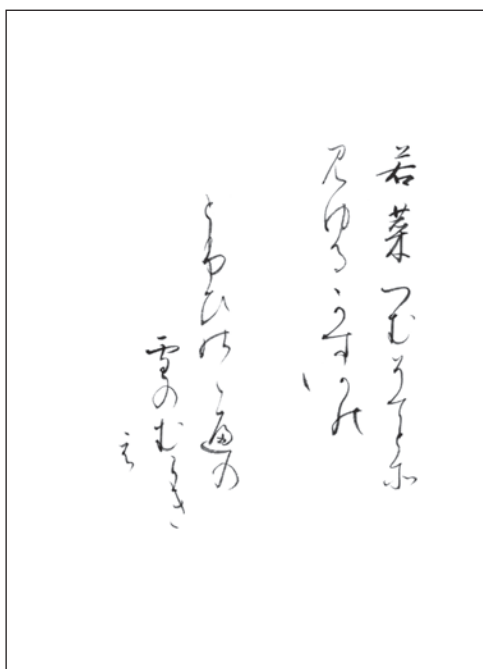
〈解説〉

今月から和歌一首を散らし書きします。

散らし書きは、かな書き独特の表現法で、漢字の書道にはないものです。行の長さや行間などを変化させた上で、全体が呼応し響き合うように調和することが大切です。空間の生かし方を学びましょう。

（甲谷景子）

〈参考作品〉



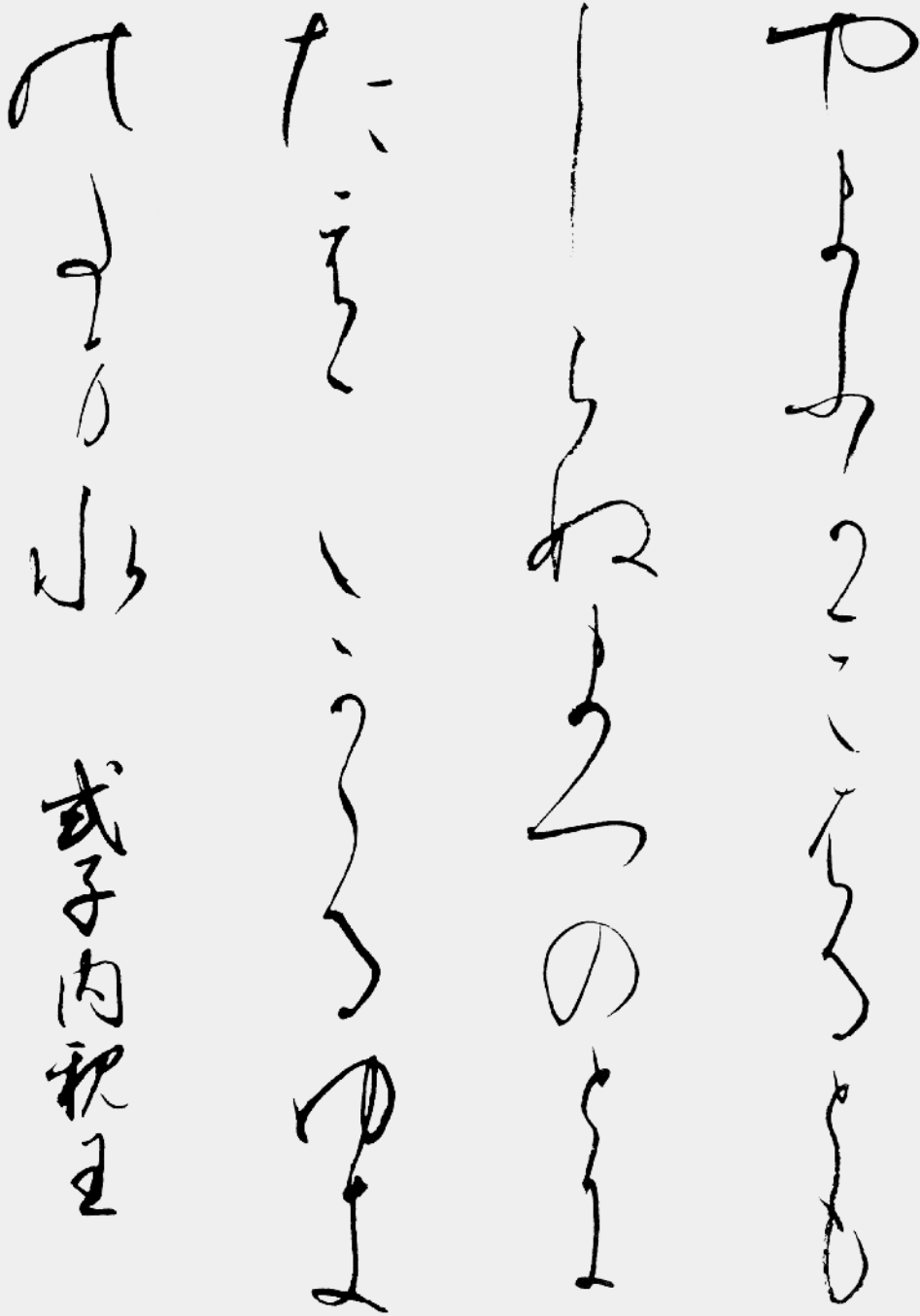
（甲谷景子臨）

【用具・用材】

筆Ⅱ かな用小筆
墨Ⅱ かな用和墨
紙Ⅱ かな用雁皮

かな半紙(6級〜10級)

左の図版の「や末ふ可三」から「式子内親王」までを半紙を縦に使用して体裁よく書きなさい。



や末ふ可三者るとも
たえ、可、るゆ支
能多万水
式子内親王

〈出典〉

梅雪かな帖中
(新古今和歌集 卷第一 春歌上3)

〈読み〉

山深み 春とも知らぬ
松の戸に たいだえかかる
雪の玉水 式子内親王

〈大意〉

山が深いので春だともわからない、庵の松の戸に、とぎれとぎれに落ちかかる美しい雪の雫よ

〈解説〉

今月は、和歌一首とその作者を、基本の形式の四行書きにします。

四行書きでは、行間はほぼ均等で、行の長さは四行目だけが短く、その下に作者名を少し小さい文字で入れます。

初めに和歌を読んで、大意・言葉・変体がなの書き方などを予め理解しておきます。

先月までの連綿の練習とは、紙面全体の流れがある点が大きく異なります。墨量の変化(潤渴)をよく観察してから書き始めましょう。含墨の位置まで墨を継がずに書けるように、墨の量を上手に調整して下さい。

(川島史子)

【用具・用材】

筆 かな細字用筆
墨 かな用和墨
紙 かな用半紙

(習い方は25ページ)

永井香樹書

學問とは

問うことをぬき

修業である

幼年少年期こそ
自分で学ぶ年齢だ

〈出典〉

「生き方の研究」

〈作者〉

森本哲郎

（一九二五～二〇一四）

○二群にまとめてみました。

○前群はやや大きめにして、後群は少し小さめにしました。

○前群をやや小さめにして、後群を少し大きめにしても良いと思います。

○文字の大きさにより、行間の広狭を考慮しましょう。

○「学」は旧字体を使いました。

○「年齢」は「年令」では、ありません。

【用具・用材】

筆Ⅱ八号 全部おろす

墨Ⅱ和墨

紙Ⅱ手漉漢字用半紙

（習い方は25ページ）

学問とは問うことを学ぶ修業である 幼年少年期こそ自分で学ぶ年齢だ

石橋鯉城書

襟巻もとらずにさぐる火種哉

襟巻もとらずにさぐる火種^{かな}哉

〈作者〉永井荷風（一八七九〜一九五九）

〈大意〉

寒さゆえ襟巻もとらずに火種を掻きながら捜す。

〈解説〉

○「襟」は衣偏に「禁」で縦の線の四本の線が目立ち、固くなるので、斜に構えている。
○「とらずに」を細めに一行に添えた。

○章法は第一群と第二群に分けて、その間^{あいだ}に、餘白を置いて「風」の通りをよくし、次の展開へ気持ちの備えをする。
○「さぐる火種^{かな}哉」を、添え書きの如く、墨量も少なく、軽やかに定着。

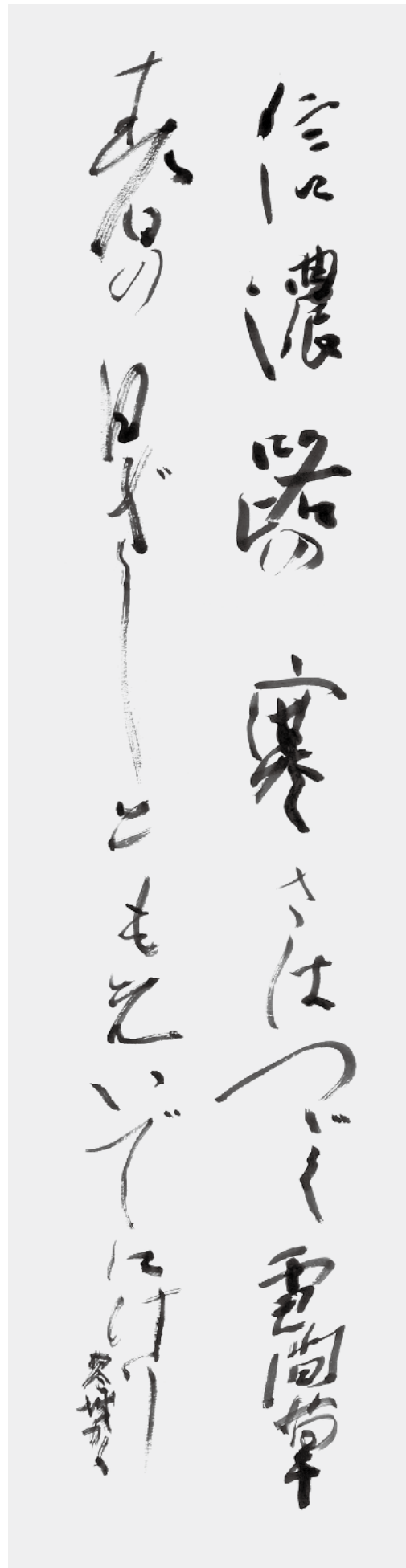
【用具・用材】

筆 冬紫毫
墨 善璉湖筆
紙 天保九如

（習い方は25ページ）

新和様条幅 専門部(五段〜準初段) 参考手本 ※新和様条幅は新和様半紙の有段者対象。条幅初出品の場合は、準初段からの出品となります。

石橋鯉城書



信濃路の寒さはつゞく雪間草 春の日ざしともえいでにけり 〈作者〉岡麓(一八七七〜一九五二)

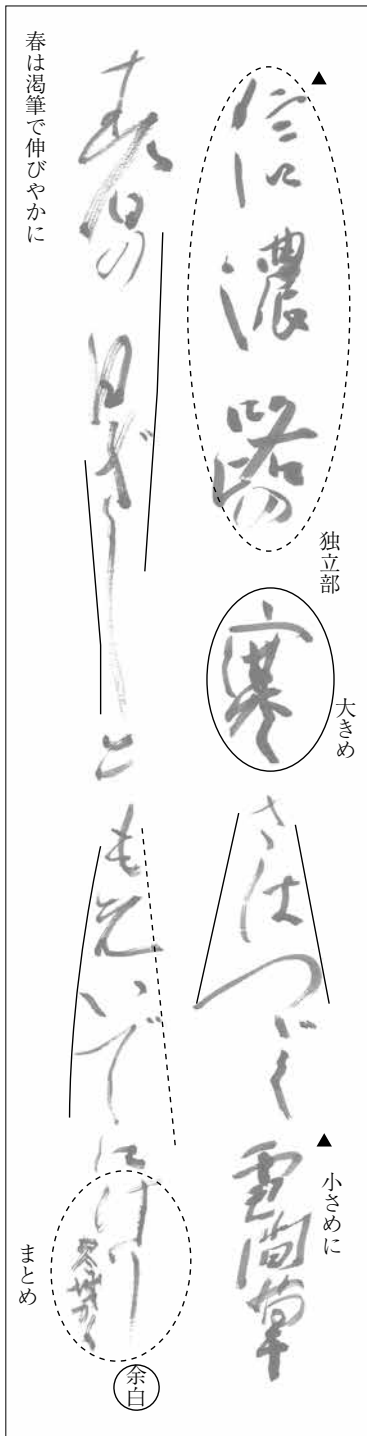
〈大意〉信濃路の冷えこみは続いていく。そこに雪間草が萌え、春の日差しに育っていた。

〈解説〉

○漢字は大切な語句なので強めに大小の変化を考えて平仮名とのバランスを考えて流したい。

○この歌は「萌え」の感じを読みとらないと何を書き留めているのか分らない。こうした課題はよく読んで漢字を思い浮べて書くとい。 「続く」「日差し」「萌え出で」など。

春は湯筆で伸びやかに



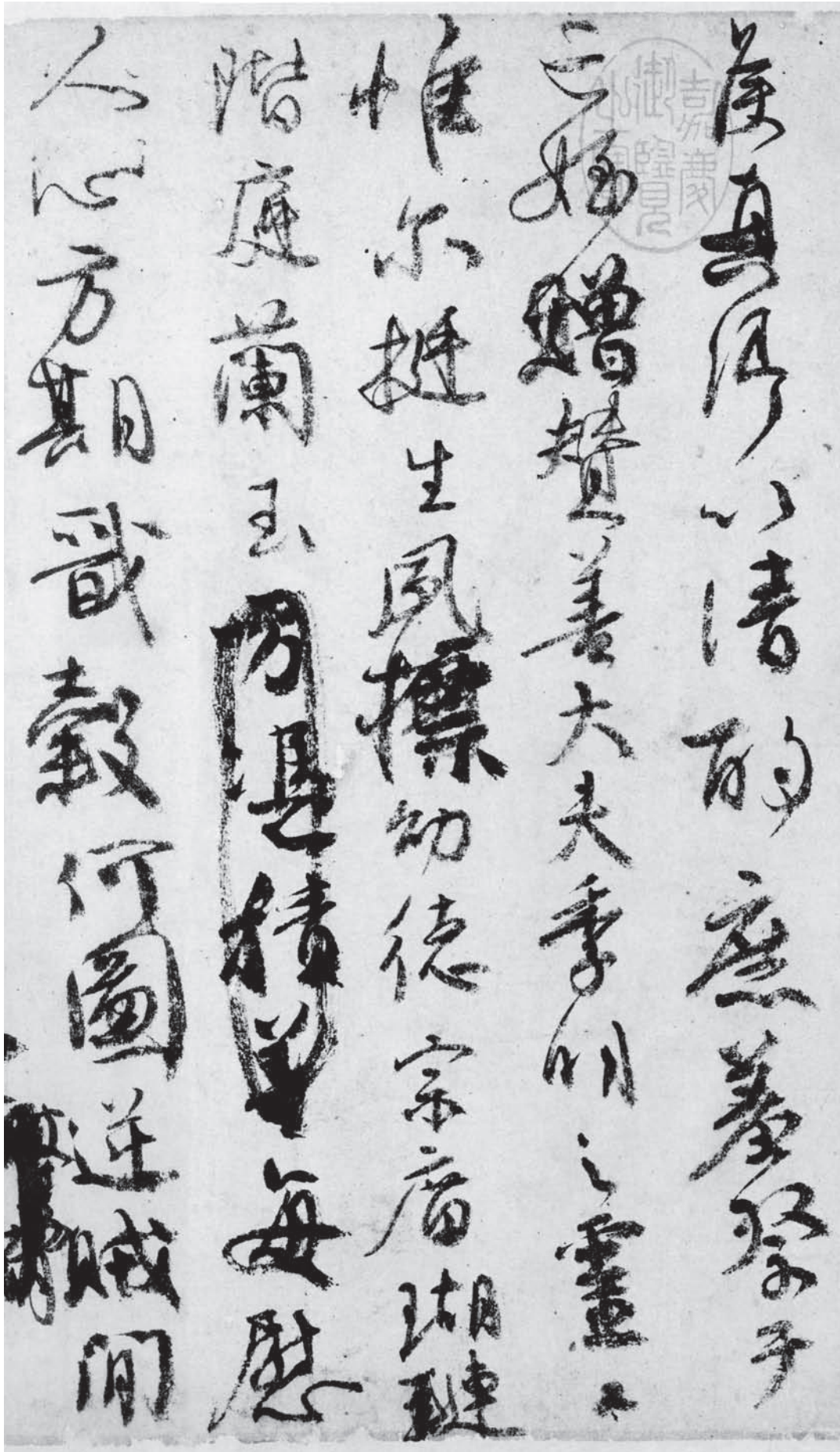
(用紙 画仙紙半折・たて 136 cm × よこ 35 cm)

【用具・用材】

筆 山猫毛筆
墨 顕微無間
紙 四尺單宣(半切)

祭姪文稿

(丹楊郡開國) 侯真卿。以清酌庶羞。祭于 亡姪贈贊善大夫季明之靈。曰。惟爾挺生。夙標幼德。宗廟瑚璉。階庭蘭玉。每慰人心。方期戢穀。何圖逆賊間 (豐。稱兵犯順。)



(丹楊郡開國) 侯真卿、清酌庶羞を以て、亡姪・贈贊善大夫季明の靈を祭る。惟うに 爾挺生し、夙に幼恵を標げ、宗廟の瑚璉、階庭の蘭玉たり。毎に「人心を」慰め、方に戢穀を期す。何ぞ図らん 逆賊 (豊を) 問い、(兵を称げ順を犯さんとは。)



祭于亡姪贈贊善大夫 季明之靈曰惟爾挺生

〈時代〉 唐 (七五八年)

〈大意〉 今は亡き姪の贈贊善大夫であった季明の霊を祭る。私は思う。お前は生まれながらにして傑出している。

(解説は26ページ)



可憐驄馬史

〈読み〉 憐れむべし驄馬の史

〈作者〉 陳子昂 (六六一〜七〇二)

〈大意〉 後漢の桓典が侍御史になって、白髪になった今でも驄馬に乗っているのは憐れ。

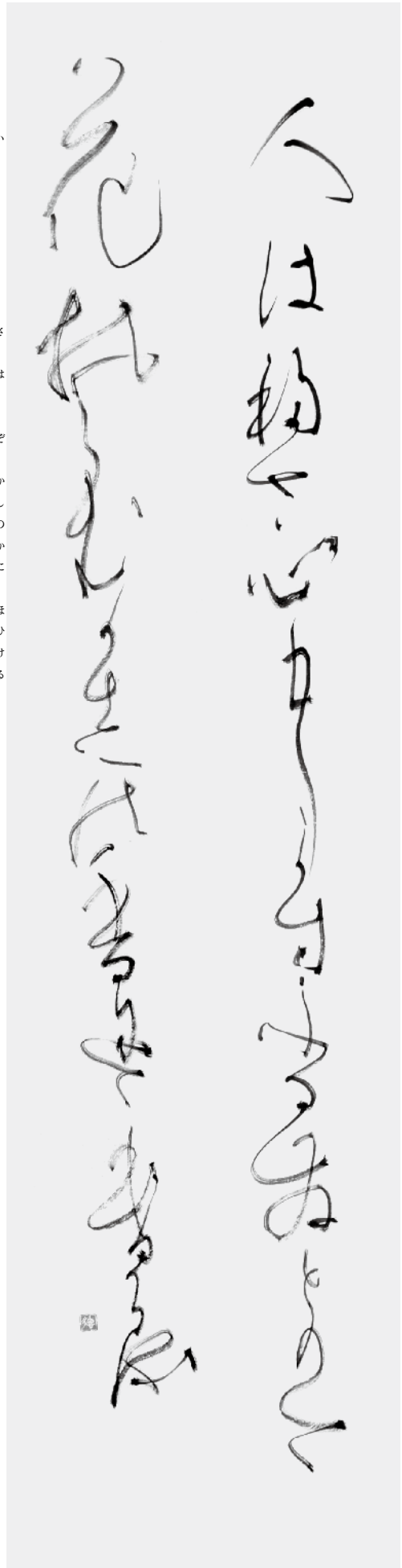
(解説は26ページ)

かな条幅 専門部 (五段〜準初段)

参考手本

※変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由

(用紙 かな用画仙紙半折・たて 136 cm × よこ 35 cm)



(解説は26ページ)

人は移^{うつ}さ心もしらすふる散^{ちり}と盤^{ばん} 花楚^{はな}む可志^{かし}能^の香^か迹^{あと}、本日^{ほんにち}介^{かい}流^{りゅう}

〔読み〕 人はいさ心も知らずふるさと花ぞむかしの香にはひける 〈出典〉 古今集 卷一・春歌上42 紀貫之(百人一首35)

〔大意〕 あなたはいかにもわたしを待っていたようにおっしゃるが、さあどうだか、こころはわからない。

しかし昔なじみのこの里はすこしも変わらず、梅の花は昔のまゝの香を漂わせて、わたしを迎えてくれたことですよ。

かな条幅 (1級〜10級)

参考手本

※変体がなの使用、漢字・かなの書き換え自由

(用紙 かな用画仙紙半折・たて 136 cm × よこ 35 cm)



(解説は26ページ)

雪と希^けて 村一葉^{むらいちよう}意^い乃^の子^こ登^{のぼ}も哉^や

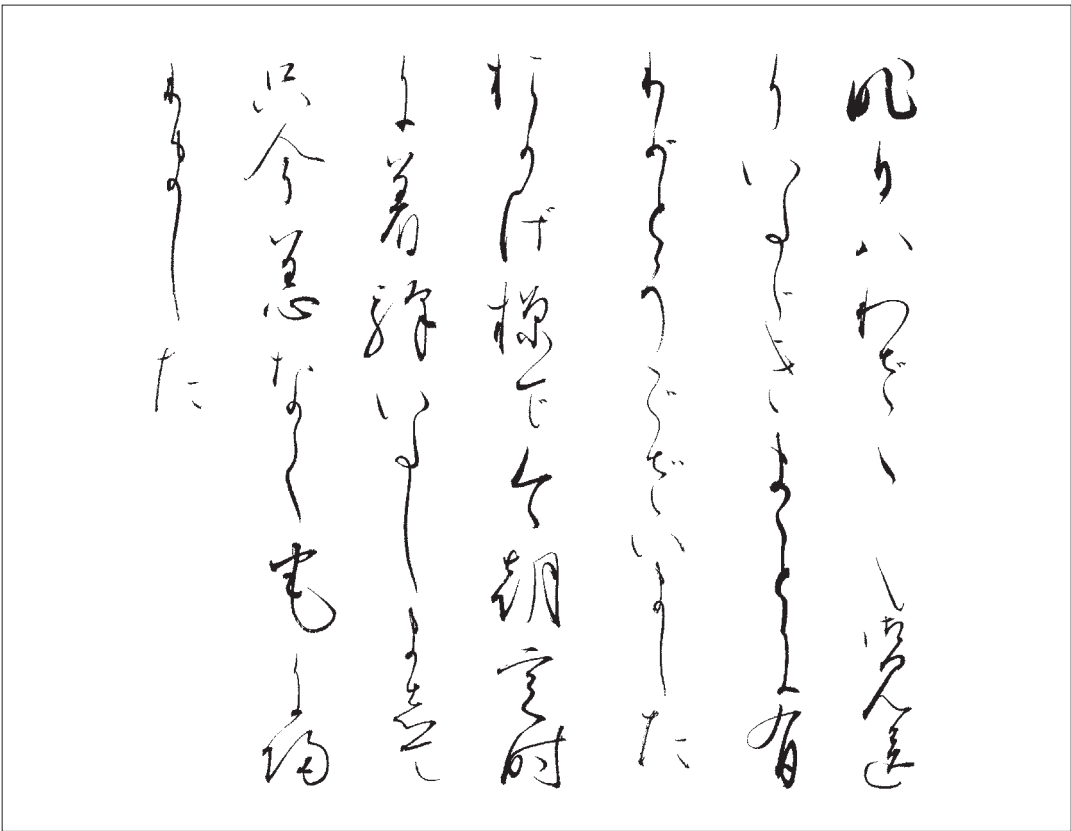
〔読み〕 雪とけて村一ぱいの子ども哉 〈出典〉 小林一茶(一七六三〜一八二八)

〔大意〕 雪どけとともに、子どもらがどつと戸外に飛び出してきた。どの子も楽しそうに遊んでいる。

村にこんなにもたくさんの子供がいたのかと、驚くばかりだ。

実用書（随意課題）

梅雪手紙帖より（安東聖空）



○出品用紙は、下側に示した清書用紙でも、これをコピーして書いても結構です。洋紙に書くことをここでは原則とします。
（今月号のものを使用してください。）

・月別出品券（69 ページ）とバーコード出品券（段級欄に「実用」と記入）を左下に貼付してください。

参考の小筆
・玉梓
・選毫圓健

切りとって提出してください（コピーも可）

教室名	
氏名	

月別
出品券
を貼る

家~白の百九十二字を清書して出品。

佛言世尊世尊猶放在世今時日月淨明
 德佛告一切衆生喜見菩薩善男子我
 憐時到滅盡時至汝可安施牀坐我於今
 夜當般涅槃又勅一切衆生喜見菩薩善
 男子我以佛法囑累於汝及諸菩薩大弟
 子并向耨多羅三藐三菩提法亦以三千

(而白)

佛言。世尊。世尊猶放在世。爾時日月淨明
 德佛。告一切衆生喜見菩薩。善男子。我涅
 槃時到。滅盡時至。汝可安施床座。我於今
 夜。當般涅槃。又勅一切衆生喜見菩薩。善
 男子。我以佛法。囑累於汝。及諸菩薩。大弟
 子。并向耨多羅三藐三菩提法。亦以三千

仏に(白して)言す。『世尊よ、世尊は猶故世に在すや』と。その時、日月淨明
 徳仏は一切衆生喜見菩薩に告げたもう『善男子よ、われ
 涅槃の時到り、滅尽の時至れり。汝よ、牀座を安かに施くべし。われ今
 夜において當に般涅槃すべし』と。又、一切衆生喜見菩薩を勧めたもう
 『善男子よ、われ仏の法を以って汝に囑累す、及び諸の菩薩・大弟子
 并びに阿耨多羅三藐三菩提の法をもち。亦、三千大千の

解説 浅野秋月

この経文は国寶として明治11年に法隆寺から皇室に献納された宝物。

おそろく写経を拝見すると同時に、実際に浄写去れる皆様にとって、ひたすら莊嚴な雰囲気になれる喜び満足感も味わっておられるに相違ありません。今回の経文の中でもっとも重要な釈迦牟尼の涅槃の場面を語るクライマックスに着目したい。

まさに僧侶が仏教を信仰する心境やその有り様が彷彿として来るではありませんか。お互いに学習を進めましょう。

尊 見 盡 休
 (1-6) (2-9) (3-5) (3-12)

大千七寶世界。諸寶樹寶臺。及給侍諸天。
悉付於汝。我滅度後。所有舍利。亦付囑汝。
當令流布。廣設供養。應起若干千塔。如是
日月淨明德佛。勅一切衆生喜見菩薩已。
於夜後分。入於涅槃。爾時一切衆生喜見
菩薩。見佛滅度。悲感懊惱。戀慕於佛。即以
(海此岸。梅檀爲積。)

七宝の世界・諸の宝樹・宝台及び給侍の諸天を以つて
悉く汝に付く。わが滅度の後、所有の舍利も亦、汝に付囑す。
當に流布せしめて広く供養を設くべし。応に若干の千の塔を起つべし」と。かくの如く、
日月淨明德仏は一切衆生喜見菩薩を勅め已りて、
夜の後分に涅槃に入りたまえり。その時、一切衆生喜見
菩薩は仏の滅度を見て、悲感しみ懊惱み、仏を恋慕したてまつり、即ち
(海此岸の梅檀を) もつて(積となし、)

大千七寶世界諸寶樹寶臺及給侍諸天
悉付於汝我滅度後所有舍利亦付囑汝
當令流布廣設供養應起若干千塔如是
日月淨明德佛勅一切衆生喜見菩薩以
於夜後分入於涅槃今時一切衆生喜見
菩薩見佛滅度悲感懊惱戀慕於佛即以

12 11 10 9 8 7

戀 後 養 滅 臺 稱 囑 縣

(12-11) (11-3) (9-8) (8-6) (7-11) (6-4) (5-7) (4-5)

全文音読して和漢混淆文の響きの美しさに触れましょう。
図版中文字で、判然としないところは、經典の「釈文」中の同字の書き方に倣って書きます。

清書の氏名の後に「謹寫」または「敬寫」の二字を書き添えます。

不二篆刻研究室

▼規定…左の語句を刻しなさい。(朱白自由・大きさは4センチ角以内)

梅迎臘

〈読み〉梅臘を迎う
〈大意〉梅が二月頃に花咲くことをいう

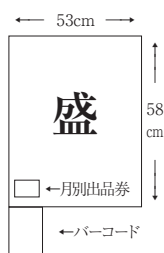
▼随意…好きな語句を刻しなさい。(朱白自由・大きさは4センチ角以内)

○作品は「半紙横」を縦長にして体裁よく押印し、印影を提出。

○巻末の「競書出品要項」をよく読んでご出品ください。

一字書

▼規定…左に示す漢字を一筆書として墨継ぎすることなく「書」しなさい。
(書体自由)



〈読み〉セイ

〈意味〉さかん

〈おすすめの利用〉

萬象 50枚 (夾宣)

作品の左下に教室名・氏名・会員番号・段級を鉛筆で記入のこと。

▼随意…左に示す平がなに運筆の呼吸を吹き込んで生命ある字に仕立てなさい。
(書体自由)

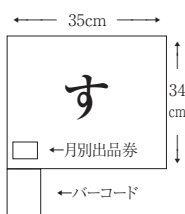
仮名の成り立ち「寸」を考えて創作すること。

〈おすすめの利用・用材〉

一字書 100枚 (夾宣)

特選二字書 100枚 (夾宣)

作品の左下に教室名・氏名・会員番号を鉛筆で記入のこと。



○バーコードは、段級欄に「二字書規定○段(級)または「二字書随意」と書いて貼付してください。(規定の方は段級を忘れずに)

○落款は印のみか一字に雅印ぐらいで。

○巻末の「競書出品要項」をよく読んでご出品ください。

今月の出品期間
2月7日(月)～2月15日(火) 必着

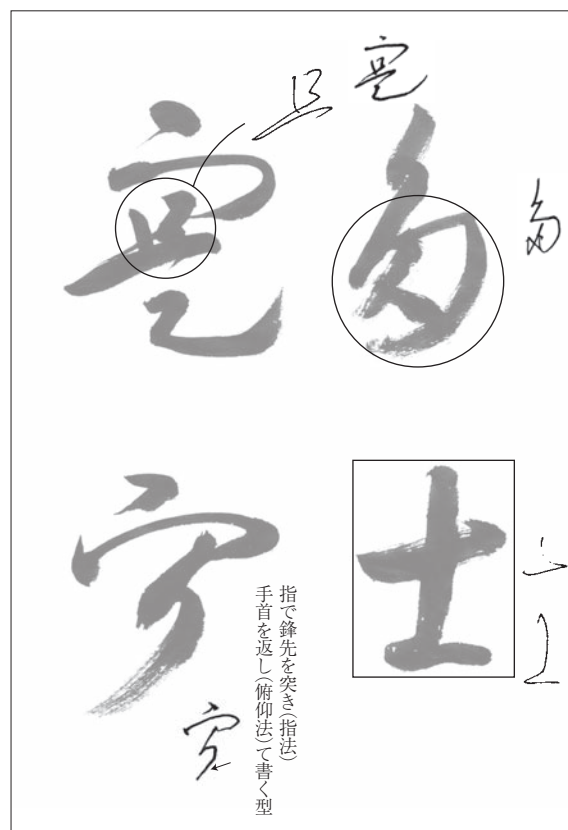
漢字半紙 1級～5級 (真草千字文)



(石橋鯉城)

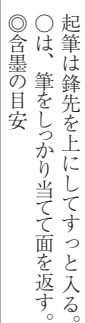
課題解説

漢字半紙 五段～準初段 (真草千字文)



(石橋鯉城)

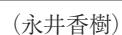
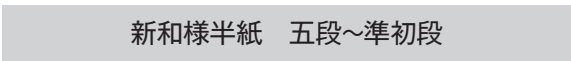
かな半紙 6級～10級



新和様半紙 1級～10級



漢字半紙 6級～10 級



漢字条幅 五段く準初段

(林田香濤)

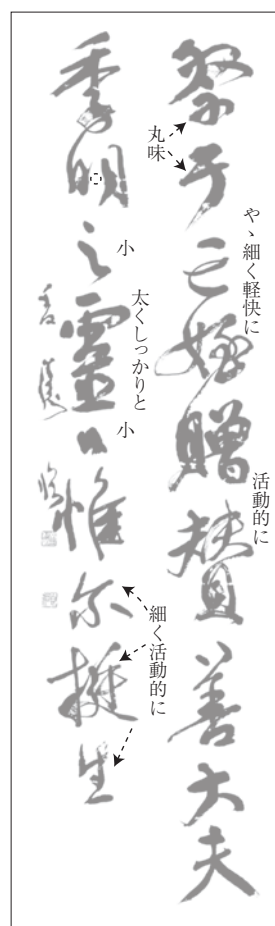
祭姪文稿臨書 PART II

「祭姪文稿」(七五八年)は顔真卿の代表的な書で、三稿の一つに挙げられている。率意の書のもつ変化に富んだ用筆や造形をとらえていくことが狙いである。

○ゆつたりとした呼吸で、抑揚(太細)の変化を加えていこう。

○向勢で文字の懐の広い字形を心掛けよう。
○運腕を大きく伸びやかに表現しよう。
※感情の激したその心情が出ている部分。その運筆を大切に。

〈用具・用材〉
筆Ⅱ和筆・羊毫長鋒 墨Ⅱ和墨・油煙墨
紙Ⅱ中国画仙紙



漢字条幅 1級く10級

(小久保嶺石)

○五文字作品としての体裁を考え、構成の上で文字の字形・墨色・バランスなどに留意する。

○東晋王羲之や黄庭堅、犀水千字文などを参考にする。

可…含墨して横画の起筆を強く重めに書く。
憐…「りっしんべん」を狭い間隔で書き、旁を広めに表現する。

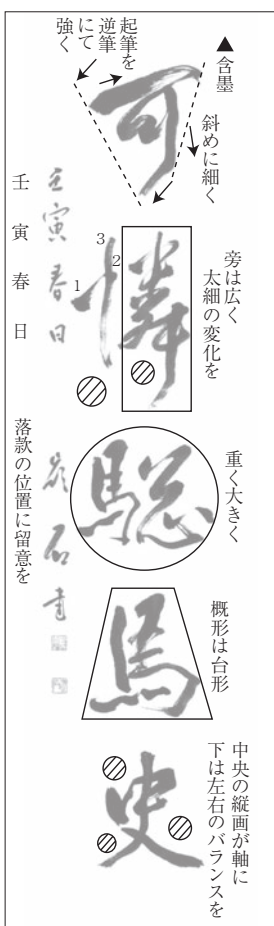
驄…馬へんに驄の旁を念と略化した表現だが「大きく重めに」書く。

馬…偏旁二字の文字に続くので、中央にしっかりと。

史…口のリズムにに合わせて、人字型を伸びやかに表現したい。

○落款の位置と落款印に留意しながら、作品としてバランスを考えて仕上げたい。

〈用具・用材〉
筆Ⅱ和筆・羊毫中鋒 墨Ⅱ和墨・油煙墨
紙Ⅱ中国画仙紙



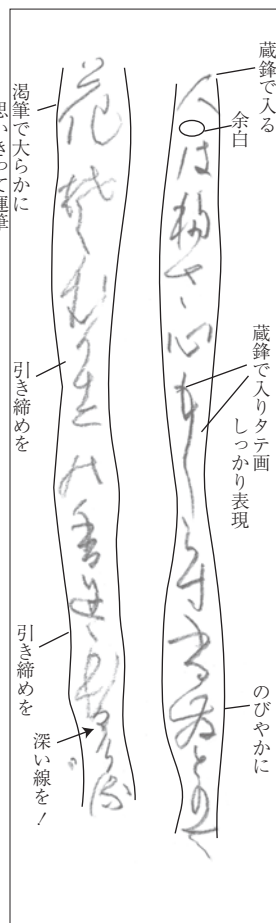
かな条幅 五段く準初段

(中村清徳)

原文のま、むずかしい変体がなも入れず
に単々と運筆。墨色の変化で作品をまとめ
ましょう。線の深さ・線の動きで変化を表現
したいものです。特に二行目縦画が多く
単調にならぬよう。

二行目渴筆で大きく展開のびくと運筆
をノ 結句の入墨多過ぎぬよう留意をノ
行間の変化さわやかにまとめたい。

〈用具・用材〉
筆Ⅱかな条幅用筆 墨Ⅱ和墨
紙Ⅱ和画箋



かな条幅 1級く10級

(内堀信嶺)

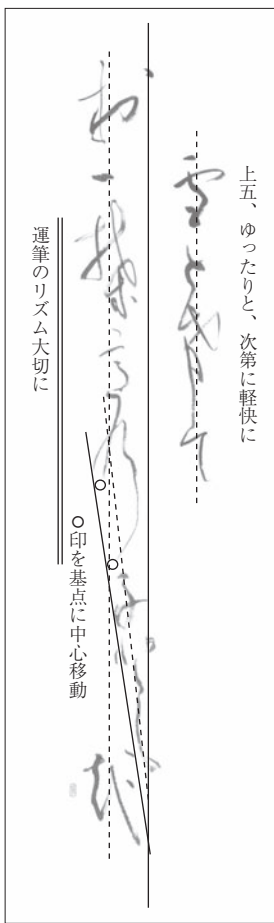
○上五を一行とし、以下を一行として、伸
びのびと遊ぶ子供たちの賑やかさをイ
メージして行構成を考えてみました。

○墨継ぎの位置と墨量に留意し、運筆のリ
ズムを大切にしてみた。

※左記の課題解説も参考にして下さい。

○行構成上、二行が左右に片寄らないよう
に留意した。

〈用具・用材〉
筆Ⅱかな条幅用筆 墨Ⅱ和墨
紙Ⅱかな用画仙紙



全日本学生書道展と同時開催

書家の登龍門 厳正公平な作品本位の審査

第71回 書道學會展

第一会場 令和4年1月4日(火)～10日(月)

東京都美術館 2階第3・4展示室(東京都台東区上野8-36)
午前9時30分～午後5時30分まで(入場は午後5時まで) 最終日は午後2時まで(入場は午後1時30分まで)

第二会場 令和4年1月4日(火)～10日(月)

東京芸術劇場 ギャラリー1(5階)(東京都豊島区西池袋1-8-1)
午前10時～午後7時まで(入場は午後6時30分まで) 初日は午後4時から、最終日は午後5時まで

■部 門 創作(漢字・かな・新和様)・臨書(漢字・かな)・
漢字造型(一字書・少字数書)・写経・篆刻

【主催】公益財団法人 日本書道教育学会 【後援】文化庁・中国大使館・東京都・読売新聞社

※授賞式は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、特別賞受賞者のみで執り行います。

作品募集 出品期間：令和4年1月17日[月]～21日[金] 必着

公募
第35回

不二現代書展

漢字かな交じり書・
漢字造型の新しい展開

会 期 令和4年3月16日[水]～21日[月] 会 場 大阪市立美術館 地下展覧会室
(大阪市天王寺区茶臼山町 1-82)

時 間 午前9時30分～午後5時 出品料 13,000円(税込)
(入館は午後4時30分まで) ※ただし部門を跨いで出品の場合は2点目以降1点につき7,000円とする。

褒 賞 文部科学大臣賞・大阪府知事賞・大阪市長賞・大阪教育委員会委員長賞 他

【主催】公益財団法人 日本書道教育学会 【後援】文化庁・大阪府・大阪市・大阪教育委員会

～日本の伝統文化「書初」にご家族・団体でご出品を！～

令和4年 書初不二誌上展

作品
募集

出品期間：令和4年1月12日(水)～1月18日(火) 必着

表 彰

特選に選ばれた作品は

不二・ぺんの力各誌三月号に写真版として掲載されます。

特選・金賞・銀賞・銅賞

特選・金賞には賞状及び賞品を、銀賞・銅賞には賞状を贈呈します。

＜送り先＞
問合せ先

〒101-8358 東京都千代田区西神田2-2-3
公益財団法人日本書道教育学会 展覧会係

電話 03(3234)3956
FAX 03(3234)3548

段 級	会員番号
漢字半紙	
かな半紙	
新和様半紙	
漢字余幅	不二教室
かな余幅	氏 名
新和様余幅	
細 字	
篆 刻	
一 字 書	